

## 2021年度

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション・インストラクター資格取得希望者 レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1, 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得するために必要な知識・技術を得る。 2, コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3, 対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4, レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1: 対象者を特定し、その対象者に対応したレクリエーションを考え、グループで指導計画を作成する。その際、①対象者の特性、②人数、③支援上の留意点、④支援計画 (タイムスケジュール)、⑤支援環境などを十分考慮して立案する。 課題2: 立てられた企画書にしたがって実際に発表を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『楽しさとおとした心の元気づくり』日本レクリエーション協会。 【参考書】 *必要に応じて資料を配布		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. レクリエーションの特質を捉えて、自己への挑戦・前向きな姿勢 (出席状況含む) を評価規準とする。 2. 実技発表への取り組み姿勢と分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 3. 授業を振り返り、レクリエーションへの考え方や自己への課題を前向きに捉えることができたか。 ○評定の方法 1. 授業への積極的参加態度 50% (出席状況や意見発表を含む) 2. 実技発表・課題レポート 40% 3. 振り返りのレポート 10% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業はレクリエーションの意義や特性を把握し、発達段階や疾病段階に応じたレクリエーションワークについて学ぶことを目的としています。そのためには、まず、レクリエーションを自分で楽しむことから始めます。そして、最終的にはレクリエーションを自ら立案し、援助できる能力を培います。みなさんで互いに協力し合いながら有意義で楽しい授業を進めていきましょう。 受講生には本授業参加にあたって下記に示す心構えを期待します。 1. 授業は集中し、発表の振り返りに際しては活発な意見、質問等を行うこと。 2. 欠席、遅刻、早退は厳禁である。やむを得ない理由の場合は、届けを提出すること。 3. 実技中心の授業なので、運動にふさわしい服装、髪型をしてくること。ジーパンは禁止。  注) なお、「対面・遠隔併用授業」が実施される場合においても、基本的には本授業内容に沿って進めていくものとしますが、予定している実技については、レクリエーション全般に関連する理論的な講義を必要に応じて遠隔授業で実施できるよう変更する場合がありますことを理解しておいてください。また、「対面・遠隔併用授業」が行われた際には、15コマのうち3コマ分 (12~14回目: 下線部参照) を講義に代えて実技にかかわる課題を提示することを予定しています。その際は評価規準も一部変更になります。詳細は授業内で周知します。		
13. オフィスアワー	授業内で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 本講義の意義 (授業の約束、概要、留意点、グループ分けなど) *教科書等を確認しながらこれから何を学習していくのかを知り、自分なりに授業の展望を掴む。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	各グループで提案するレクリエーションの内容について具体的に話し合う。
第2回	レクリエーションワーク① 体験・ディスカッション (幼児期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	幼児期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。

## 2021年度

第3回	レクリエーションワーク② 体験・ディスカッション（児童期） *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	児童期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第4回	レクリエーションワーク③ 体験・ディスカッション（青年期） *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	青年期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第5回	レクリエーションワーク④ 体験・ディスカッション（壮年期） *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	壮年期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第6回	レクリエーションワーク⑤ 体験・ディスカッション（高齢期） *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	高齢期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第7回	レクリエーションワーク⑥-1 オリエンテーション（障害者） *特に視覚障害者に対するの援助を中心として行う。そのためのオリエンテーションを行う。レクリエーションを行うに際しての留意点を理解できるようにする。<講義・ディスカッション>	事前学習	障害者（本授業では視覚障害者）のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	演習を通して学んだ視覚障害者への理解と他の障害者への手助けとしてのレクリエーションのあり方についてまとめる。
第8回	レクリエーションワーク⑥-2 体験・ディスカッション（障害者） *提案グループは企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	前時の活動を受けて、視覚障害者のレクリエーションの実際について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第9回	レクリエーションワーク⑦ 体験・ディスカッション（場の設定） *提案グループはまず場の設定が与えられる。その場に適したレクリエーションを企画し発表する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	特性な場所や環境（未定）を設定し、そのレクリエーションのあり方や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第10回	レクリエーションワーク⑧ 小学生 *具体的に小学生の何学年かをはじめに設定し、それに伴うレクリエーション活動を企画する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	幅の広い年齢層がある小学生のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第11回	レクリエーションワーク⑨ 実施時期の設定 *はじめに実施時期を設定し、それに伴うレクリエーション活動を企画する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	実施時期（例：春夏秋冬）を限定し、相応したレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第12回	「レクリエーション大会」のプランニング①（グループ分け） *紅白に分かれてレクリエーションの要素が入った運動会を企画する。選出された実行委員を中心としてグループ分け、大会の意図にふさわしい種目、持ち時間の設定など大会が円滑にできるように話し合いを行う。<ディスカッション> *「対面・遠隔併用授業」が実施される場合は実技にかかわる課題を提示	事前学習	レクリエーション大会に向けてどのような運営方法が重要かつ必要であるかを考える。①
		事後学習	ディスカッションを通して参考になったことを各グループで話し合い、適切なレクリエーションを企画する準備をする。①

## 2021年度

第13回	<p>グループごとによる「レクリエーション大会」のプランニング②</p> <p>*実際にグループにわかれ、各グループで割り当てられた種目(出し物)について、準備する物や必要となるルール、採点方法など詳細な企画書作りを行う。&lt;ディスカッション&gt;</p> <p>*「対面・遠隔併用授業」が実施される場合は実技にかかわる課題を提示</p>	事前学習	レクリエーション大会に向けてどのような運営方法が重要かつ必要であるかを考える。②
		事後学習	ディスカッションを通して参考になったことを各グループで話し合い、適切なレクリエーションを企画する準備をする。②
第14回	<p>「レクリエーション大会」1日目</p> <p>*実際の大会に際しては、①企画書どおりに運営されているか、②大会にふさわしい態度で臨んでいるか、③大会を盛り上げようと自分なりに工夫をしているか、④レクリエーション自体に工夫がされているか、などを中心に評価する。&lt;評価&gt;</p> <p>*「対面・遠隔併用授業」が実施される場合は実技にかかわる課題を提示</p>	事前学習	全員で取り組む「レクリエーション大会」の具体的な運営方法を考える。
		事後学習	「レクリエーション大会」1日目の反省と2日目の準備およびその留意点をまとめる。
第15回	<p>「レクリエーション大会」2日目 まとめと評価</p> <p>*実際の大会に際しては、①企画書どおりに運営されているか、②大会にふさわしい態度で臨んでいるか、③大会を盛り上げようと自分なりに工夫をしているか、④レクリエーション自体に工夫がされているか、などを中心に評価する。また、大会終了後総評を行う。&lt;評価&gt;</p>	事前学習	全員で取り組む「レクリエーション大会」2日目の改善点や留意点をまとめる。
		事後学習	「レクリエーション大会」の総括と実際の現場での応用にかかわる検証をする
15. 実務経験を有する 教員特記事項	レクリエーションインストラクター資格を所有し、小学校での教諭経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		